

# 未来を担う若者へ介護の魅力を伝えよう ～高等学校での社会人講師を通じて～

全国的に介護の担い手不足が深刻化している現状を受け、当施設では現場の介護士が講師となり、未来を担う若者へ介護の魅力を伝える取り組みを始めた。人材確保、地域福祉の発展へ繋がるものとして、また職員の成長の場として効果を期待している。

鳥取県

社会福祉法人

こうほうえん

〒683-0841 鳥取県米子市上後藤3-7-1 (よなご幸朋苑)  
TEL: 0859-30-0123 FAX: 0859-30-0130

## ○法人設立年/昭和61年

## ○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 96事業  
②経営施設・事業【種別毎の数】:  
特養…7、老健…3、ケアハウス…5、生活支援  
ハウス…4、高優賃…2、保育所…5、リハ病院  
…1、デイサービス…17、訪問介護…4、訪問  
入浴…2、訪問看護…3、訪問リハ…1、デイケ  
ア…4、ショートステイ…10、特定施設…5、  
福祉用具貸与…1、グループホーム…8、居宅介  
護支援事業…6、小規模多機能型居宅介護…3、  
介護予防支援事業…3、知的障害就労支援施設…  
1、介護予防拠点…1

## ○法人の理念・経営方針

### 【理念】

私たちは、地域に開かれた、地域に愛される、  
地域に信頼される「こうほうえん」を目指します

### 【基本方針】

私たちはサービス業のプロとして、正しい情報  
を伝達し、自分が受けたい保健・医療・福祉サー  
ビスの、提供・改善に努めます

## ○取り組みの法人での位置づけ等

21年度の部門年度目標「『地域との密着度』を  
高める仕組みの構築及び実践」に関する取り組み

### ○取り組みを実施している施設の概要

#### 【施設名】

よなご幸朋苑

#### 【施設種別及び利用定員】

介護老人福祉施設 74床、短期入所生活  
介護 10床

#### ○活動内容

◇活動開始年: 平成21年4月

◇活動の対象者:

地域の高等学校

◇活動の頻度・時間:

7月現在までで1回、今後継続実施して  
いく予定

## 活動実施の背景、実施にいたった理由

「介護」と聞いて世間の人ほどの様なイメージを持つだろ  
うか?これまでマスコミで取り上げる「介護」は、どちらか  
と言えばその“大変さ”ばかりにスポットが当てられる傾向  
にあった。「キツイ」「汚い」「給料が安い」…。介護には常  
にこのようなマイナスイメージが先行してきた。介護福祉士  
を育成する専門校が軒並み定員割れとなっている昨今の実状  
は、単なる少子化という理由で片付けることはできない。し  
かしながら、多くの介護従事者が実感している通り、介護の  
仕事にはこの“大変さ”を凌ぐ“やりがい”や“面白さ”が  
ある。これから益々高齢化が進む日本。我々介護従事者は、  
高齢者と家族、そして地域社会の暮らしを守るべく、次世代  
へ“介護の魅力”を伝え引き継ぐという重要な責務を担って  
いると言える。そこで、当施設では現場の第一線で働く介護  
士が講師となり、これから社会へ羽ばたく若者へ、「介護」  
の本来の姿を伝える取り組みを始めるに至った。

## 実施内容

以下の手順で取り組みを進めた。

- ①現場職員の意見を基に施設長以下で取り組み方針・内容の  
協議
- ②高等学校への依頼と日程調整
- ③パワーポイント・資料の作成と修正
- ④学校側担当者を交え講義内容の確認と対象者の選定
- ⑤講義実施
- ⑥アンケート実施

講義の内容は以下の通りである。

実施日時: 平成21年6月10日 11時35分～12時25分 (50分)

実施対象: 県内で唯一、福祉科のある高等学校

福祉科1年生38名(他、教師3名、教育実習生2名)

講師：現場の介護士2名、主任介護士1名の計3名

- 内容：① 施設紹介  
② ケア事例を通して介護の面白さを伝える講義  
③ 福祉の道を歩んだ職員の成長過程から介護の魅力を伝える講義  
④ 質疑応答  
⑤ 演習・まとめ  
⑥ アンケート実施

### 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

講義終了後のアンケート結果は以下の通りである。

- ・学生に多くみられた感想  
「福祉は可哀想な人を助ける仕事だと思っていたが、イメージが変わった」  
「介護の仕事は大変なことばかりだと思っていたが、やりがいのある仕事だと分かった」  
「介護福祉士になれるよう、自分も頑張りたい」
- ・高等学校教師にみられた感想  
「学生たちが普段以上に真剣に授業を受けていた」  
「自分たちは理論や知識は教えられるが、実体験を伝えることはできない。機会があれば今後もうこうした講義をしてもらいたい。」

講義を終えた一カ月後、受講した生徒は“介護コース（介護福祉士取得を目指すクラス）”もしくは“ボランティアコース”を選択したが、今年度は介護コースへ定員数を超える希望がみられた。

講師を担当した者は、準備に多くの日数を費やし負担もあったが、それに代わり得る十分な手応えを感じることができた。こうした経験を通して介護士である我々職員が新たなやりがいを得て成長していくことは、人材育成の観点から施設にとっても大きなメリットがあると言える。

### 今後の課題及び展開

今回の取り組みは一定の成果を見ることができた。しかしながら、一時的な想い・感動は時間が経つにつれ薄れてしまうものである。未来を担う若者が自らの仕事として介護の道を目指し、実際に

介護士となるに至るまでには、一時的なものではなく継続してアプローチをしていくことが重要となる。講義を行った高等学校へは9月に再び講義を行う予定であり、先方担当者と内容の検討を進めている。他職員へも参加を呼びかけ、多様な講義内容としていく計画である。また、他校へも働きかけを行い、多くの若者に介護の魅力を伝える事で、人材確保を図っていきたいと考える。地域において介護への関心が高まることで、我々介護従事者の質の向上へと繋がり、地域福祉全体の底上げとなることを期待している。

### 主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 6名  
（職種等：介護士・主任介護士・介護課長・生活支援課長・施設長）

